

女滝不動

滝沢の箒川沿いに、女滝と呼ばれる滝があります。女滝はその名の通り、女の人が長い髪を櫛でとかしているような姿に見え、滝の側には「女滝不動」と呼ばれるお不動さまがあります。これは、今から二百年ほど前のお話です。

女滝にある滝沢村は、代々佐藤家が庄屋をしていました。そのころ庄屋をしていた一郎兵衛はたいそうな釣り好きで、暇さえあれば箒川に行っていました。ある夏の夜、一郎兵衛は夜釣りに出かけしばらく楽しく遊んでいましたが、竿にかかった魚をはずしながらにげなく遠くの流れを見てみると、水の中に何か光るものがあるのに気づきました。

「あれー、なんだべ。星でも映ってんだんべか。変だなあ」と、ひとりごとをいいながらよく見ていると、ますます輝いて見えました。一郎兵衛が竿を置きザブザブと川の中へ入って拾い上げて見ると、三日月形をした白い石が煌々（きらきら）と光を放っていたのです。

「なんだこりゃ、この光は一体なんだんべ」と不思議に思いながら石を見つめているうちに、常日頃お不動さまを信仰していた一郎兵衛は、はたと気が付きました。

「ありがてえ、ありがてえ。こりゃあ、お不動さまが現れなすったにちがいねえ」と、光る石をおしいただくようにして家に帰りました。

そして、家中の者を集めると、

「これはな、女滝の近くの箒川の中からめつけたんだから、女滝のそばさお祀りするのが一番いかんべ」といいました。

さっそく次の日に女滝のそばにお堂を建てて光る石を祀り、「女滝不動」と名づけたのです。不思議なことに「女滝不動」は、目の悪い人がお参りするとよくなると伝えられ、地元はもとより、遠くからもお参りに来る人があったということです。今でも「女滝不動」は、佐藤家の氏神さまとして大切に祀られています。

おしまい